

日本のテラコッタ建築～大正・昭和初期の装飾の保存と公開

株式会社 LIXIL INAX ライブミュージアム 殿

テラコッタは「焼いた土」という意味のイタリア語が語源であるが、建築の世界では、ボリュームがあり装飾性に富んだ焼き物でできた建材のことを指している。日本では、大正時代末のころから鉄筋コンクリート造建築物の外装材として使われ、国内の建築家は競って独自の様式で装飾に凝った設計をした。しかし1940年代以降は、このような装飾性の高いテラコッタ建築はモダニズムの潮流に押されて復活することなく、短い時代を終えた。

テラコッタやタイルなど、建築陶器を製造する会社として起業し、活躍してきた伊奈製陶株式会社（現 LIXIL）は、このわずか二十数年で消えてしまったテラコッタ建築の価値を次代に伝えていくことの大切さを認識して、役目を終えて解体されるテラコッタ建築の一部を譲り受けながら、自ら解体・収集・保存し続けた。さらにテラコッタ建築の写真集および調査資料等の出版や収集物の一般への公開などを行い、これまでにない建築装飾のアーカイブスとしての役割を果たすための活動を継続的に行ってきたおり、その業績は大きい。業績の特筆すべき点は、以下のとおりである。

(1) 装飾の時代を担ったテラコッタの収集

1970年代からテラコッタ建築のスクラップ&ビルドが進む中で、関係者の理解と協力を得ながら、テラコッタの解体・収集・保存を長期にわたり継続的に実施してきている。収集したものは、40物件、240ピースにも達している。

(2) 収集したテラコッタの公開

1983年に伊奈ギャラリー（東京都）にてテラコッタの企画展示を開催し、また1986年にはINAXライブミュージアムにある「窯のある広場・資料館」（常滑市）で、テラコッタ展を開催し、その啓発に努めた。その後、常設展として、同施設でテラコッタの細部や釉薬などの鑑賞もできる展示内容で公開し続けた。2012年4月には、「建築陶器のはじまり館」を新たに建設して、屋外の実物展示場も含めたテラコッタ専用の施設として整備し、この間に収集したテラコッタ装飾品の新たな展示も含め、継続的に公開している。

(3) テラコッタの装飾美の伝達

今後取り壊されてなくなるかもしれないテラコッタ建築について日本各地を巡り、117物件の写真やその内容をまとめて、『美の彷徨』（1983年）を出版し、記録保存に努めている。また、2012年には、『日本のテラコッタ建築～昭和・震災復興期の装飾』を出版し、テラコッタ装飾建築の写真、装飾画、5都市におけるテラコッタ建築の分布マップ等を新たにまとめ、貴重な資料となっている。

(4) タイル&テラコッタの復元と保存

タイル製造工場のOBや焼き物の専門家を中心とする技術者集団によるものづくり工場の部署を開設し、テラコッタの復元や修復、新たなデザインによるテラコッタの製造などに貢献している。

以上のように、日本建築におけるテラコッタ装飾の現物の収集やその保存のために長年に亘って、多くの努力が払われていること、専用の展示施設を建設し広く公開するとともに

にテラコッタ建築の写真集やその内容の記録等を出版し伝承していること、さらにテラコッタの復元や修復の専門部署を設けて技術の継承等に努めていることは、高く評価できる。よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。